

平成 22 年度 福岡市におけるインフルエンザの流行状況

保健科学課 ウイルス担当

福岡市における 2010/2011 シーズン（平成 22 年度）のインフルエンザ様疾患の集団発生は第 37 週（9 月 14 日）に散発的に起こり，その後第 50 週（12 月 20 日）から流行が始まった．集団発生は，第 3 週目にピークが認められ，その後一端減少したが，再度第 11 週目にピークが認められた（図 1）．福岡市内における集団発生は計 207 施設で発生し，患者数は 2,488 人であった（表 1）．新型イ

ンフルエンザの大きな流行が認められた 2009/2010 シーズンの患者数（19,439 人）と比較すると大きく減少したが，2008/2009 シーズン以前の過去 3 年間の平均患者数（1,426 人）を上まわった（表 2）．

感染症発生動向調査においても，集団発生と同様に第 51 週目あたりから患者数が増加し，第 3 週目と第 11 週目をピークとする二峰性の流行を示した（図 2）．

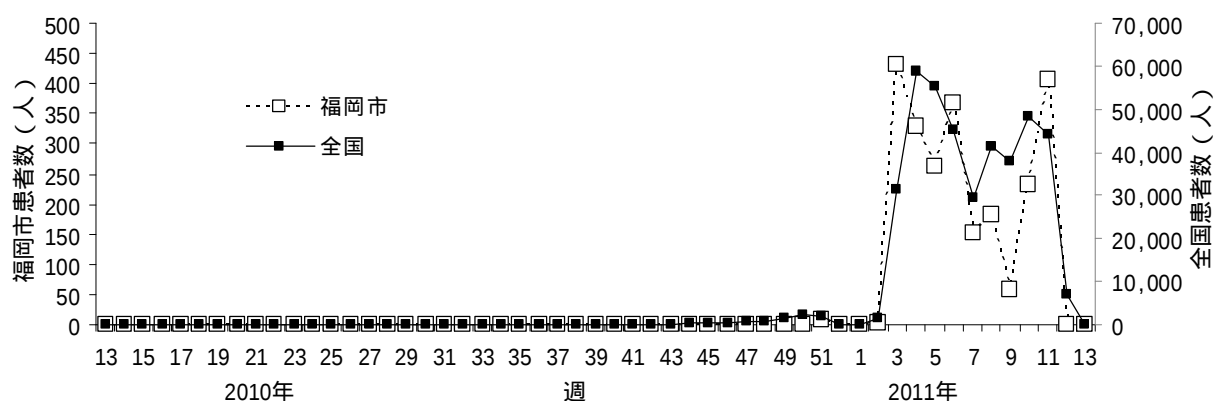


図 1 インフルエンザ様疾患集団発生患者数

表 1 集団発生事例における施設別発生状況

施設	発生施設数	在籍者数	患者数	休校数	学年閉鎖	学級閉鎖
幼稚園	65	2,667	727	9	7	48
小学校	116	4,127	1,439	0	4	112
中学校	13	703	171	0	3	10
その他	13	1061	151	1	3	9
計	207	8,558	2,488	10	17	179

表 2 過去 5 年間の年度別集団発生患者数

年度	2006	2007	2008	2009	2010
患者数	2,080	637	1,560	19,439	2,488

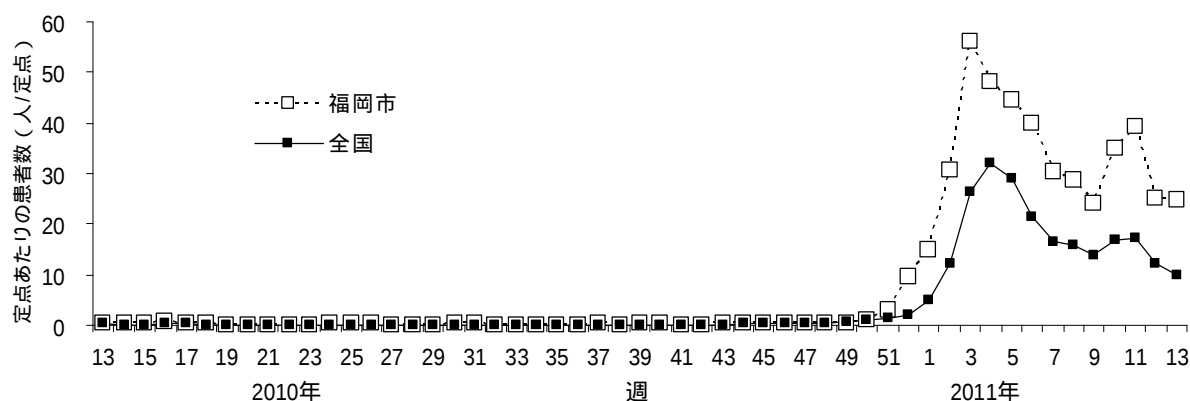


図 2 感染症発生動向調査患者定点あたりのインフルエンザ患者報告数

感染症発生動向調査からのウイルス分離は A/H1N1pdm 型が 38 株, AH3 型が 34 株, B 型が 6 株であった。患者数とウイルス分離の状況から, 流行の最初のピークは A/H1N1pdm 型によるもので(一部 AH3 型が混在), 次のピークは AH3 型の流行によるもの(一部 B 型が混在)と考えられた(図 3)。

2009/2010 シーズンは新型インフルエンザの流行により例年とは大きく異なる流行パターンであった。一方, 2010/2011 シーズンは例年と類似した流行パターンであったが, 早期に患者発生, ウイルス分離(特に AH3 型)があったことが特徴的であった。

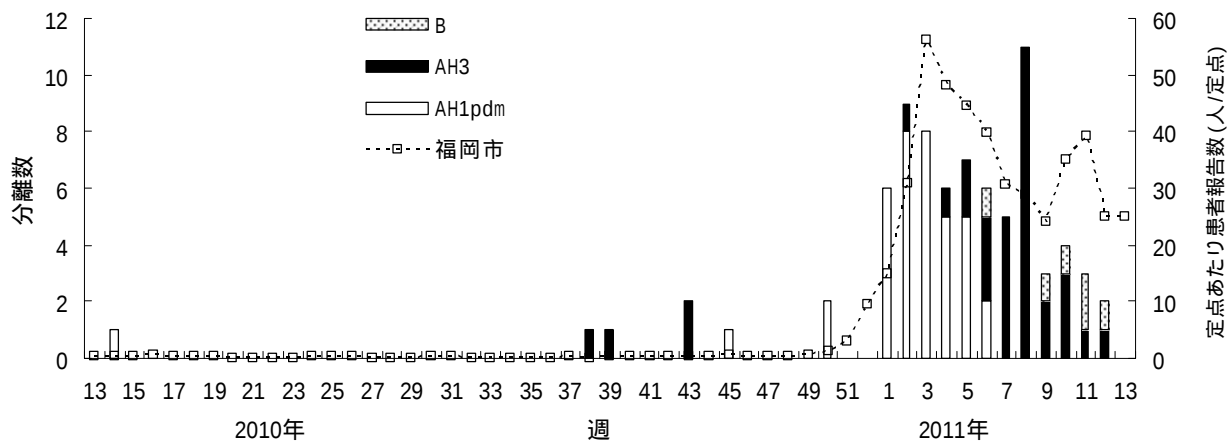


図 3 福岡市における感染症発生動向調査患者定点あたりのインフルエンザ患者報告数とウイルス分離数